

環境について
みなさんもう一度真剣に考えてみませんか？

Save The Kikuchi River

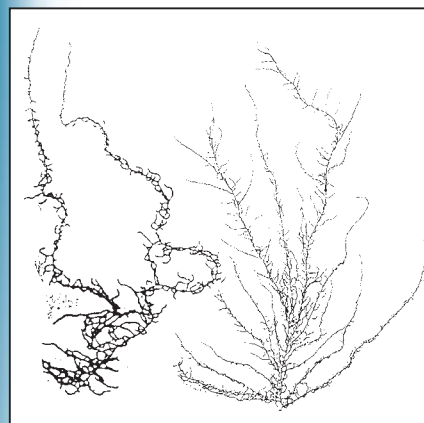
川

の中にはいろんな生物が住んでいます。一番目につくのは魚類です。今までは魚類を中心に幾種類か書いてきましたが、川の中にはいろんな植物も繁茂しています。今回は菊池川に発生する珍しい植物を紹介します。「チスジノリ」です。淡水藻で菊池川にはエビモ、ヤナギモ、カナダモ、マツモなどの藻類を見ることが出来ます。たいていは葉緑素を持っているので水中で炭酸同化作用を行っている緑藻類ですが、チスジノリは淡水産では珍しい紅藻類に属し江藻素を持っているので紅く見えます。

チスジノリは極めて珍しい日本特産の川藻ですが、それが昭和23年2月上旬、山鹿市方保田の菊池川で発見されました。発見者は私の中学校当時の担任の先生で、生物専門の故松尾繁樹先生で、水中植物を盛んに調査されていきました。その時細長い糸状の丁度女性の長い髪の毛のようなものが水中になびいているような川藻に注目され、それが毎年同じ場所に繁茂することも確認されました。毎年寒い時期に繁茂するのを採集していろいろ調べられましたが、分類学上の位置が全く分かりません。川の近くの人達は川底いっぱい生え

てくるので佃煮にしたりして食べていたようです。山鹿温泉旅館や料亭でも珍しいノリとして出されていたようです。「里見八犬伝」の著者として有名な滝沢馬琴の著書にも山鹿の「アマノリ」として記録されているそうです。「山鹿なるいで湯の町の川の華チスジノリこそおもしろき味」(昭33火野葦平)の歌も残っています。

チスジノリはその枝分れた形状と暗紫色の軟らかい血管に似ていることから血條苔(チスジノリ)(血筋ノリ)の和名がつけられています。秋から春にかけて繁茂し、1.5〜2.0mの糸状の多くの枝を出します。28年冬に採集された標本を長崎大学水産学部兼宮崎大学水産学部講師の岡田喜一理學博士が現地視察され、これはチスジノリに間違いないと断定されました。これでチスジノリは明治44年12月、鹿兒島県の川内川の中流で発見されて、2ヶ所目が同じ鹿兒島県の温泉地に近い川で発見されて以来発見がなく、数十年の間チスジノリの生育は鹿兒島県に限られていたと考えられていました。菊池川の水中植物について熱心に研究が続けられていた松尾繁樹先生は正体不明の「川ノリ」を岡田喜一理學博士と共に学術的にThorea Okada i YAM



山鹿南部大橋下のチスジノリ

ADA と学名決定されたのは大発見であり、チスジノリの北限が菊池川に変更され国の天然記念物として指定を受けることになりました。チスジノリの発生地3ヶ所は川内川中流付近の温泉地の近くで、温泉の排水の流入と関係があるのではないかと考えられます。温泉地がどこもカルシウムの濃度の高い湧水地であることから、チスジノリ本体も比較的多量のカルシウムを含んでおります。また山鹿南部大橋や大堰橋の下など比較的新しくできた鉄筋コンクリート造りで、水中に沈下したコンクリートブロックに付着繁茂したところを見ると水温やpHなどが厳しく制限されているような気がします。全国で2ヶ所しかない国指定の天然記念物を何とか絶滅から護っていかねばならないと思います。

歴史調査の楽しみ方

江栗城跡

2

大田 幸博

(元菊水町史編集委員会副委員長)

城

跡は、秋が深まると、とても静かになりました。第2衛生センターへの電話ベルが、はつきり聞える程です。夏に唯一、静寂を破った蟬は、10月4日に、弱々しく鳴いたのが最後でした。今は、時折、小鳥が、さえずるだけの現場に戻りました。

掲載図は、地形図に字図をかぶせたものです。Ⅲ郭が「城尾」で、Ⅱ郭とⅠ郭が「野附」の字名となります。Ⅲ郭は、北東側から南西側へ大きく張り出しており、まさに、「城のしっぽ」を意味する地形になっています。このことから、「野附」のⅡ郭とⅠ郭が、「城の頭にあたる本体個所」であると推定されます。さらに、北側区域には「大谷」の字名があります。尾根の大きな括弧部で、縄張りの北限域と考えられます。

縄張りを歩いて見ます。

①第2衛生センターの北門から、短い坂道を上がります。

②尾根道は、Ⅱ郭中心部の少し東下を通っています。

③Ⅱ郭へ上がります。尾根は、一旦、凹地(平地に整形されています)の状態になり、西端が小山に変化します。

④Ⅰ郭の標高は、Ⅱ郭よりも少し高くなります。Ⅰ郭の南西端からは、痩せ馬地形の派生尾根が下っています。

⑤一方、Ⅱ郭からの主軸尾根は、さら

に、南側へ延びていきます。

⑥Ⅲ郭は、地形の南端部にあたり、広い面積を有しています。尾根筋との境目近くに、高圧線の鉄塔が建っています。Ⅲ郭は、笹竹の群生地です。洄れています。井戸跡があります。

〔備考1〕Ⅱ郭Ⅰ郭間は、志口永城跡の北側縄張りに、酷似します(牛舎の東下から突き出した派生尾根と、

端部の小山の整形が、全く同じです)。両城跡に、何らかの関連が伺われます。城主が同一人物でしょうか。

〔備考2〕菊水地区では、菊池川の右岸に築かれた3つの城跡(和仁石山城跡Ⅰ内田今城跡Ⅱ江栗城跡Ⅲ)です。町合併前は、菊水町と三加和町との町境に位置していました。「城尾」と「野附」の間が町界でした。



江栗城跡 地形図と字図